

平成29年度第2回蕨市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成30年2月7日(水) 午後3時～午後4時15分

2. 会 場 市役所4階 第1委員会室

3. 出席者(敬称略)

市 長：頼高 英雄

教育長：松本 隆男

委 員：加藤 正明、飯野 朗子、萩原 敏行、小島 奈津子

事務局：【市長部局】川崎 文也(理事)、佐藤 慎也(総務部長)、根津 賢治(総務部次長兼政策企画室長)、森本 悠理(政策企画室主事)

【教育部局】須崎 充代(教育部長)、渡部 幸代(教育部次長教育総務課長)、杉田 勝弘(教育部次長学校教育課長)、松永 祐希(生涯学習スポーツ課長)、小栗 信二(図書館長)、佐藤 直哉(歴史民俗資料館長)、山口 浩(学校教育課主幹)、加納 克彦(中央公民館長)、星野 尚子(西公民館長)、野田 智之(生涯学習スポーツ課長補佐)、渡邊 浩介(教育総務課庶務係長)、咲間 悟(学校教育課学校保健係長)、菅谷 敏宏(図書館管理係長)

4. 内 容

1 開会

【佐藤総務部長】

それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきます。

ただいまから、「平成29年度第2回蕨市総合教育会議」を開会いたします。

私は、本日の会議の進行を務めさせていただきます、総務部長の佐藤でございます。よろしくお願いいたします。

この会議は、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有することで、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日は1名の傍聴希望者がおりましたので、「蕨市総合教育会議の運営に関する要領」第5条に従い、傍聴を認め、入室していただきましたのでよろしくお願いいたします。

2 あいさつ

【佐藤総務部長】

それでは、会議を招集した頼高市長から、ごあいさつをお願いいたします。

【頼高市長】

本日は、「平成29年度第2回蕨市総合教育会議」を開催したところ、委員の皆様にはお忙しいところご参集いただき、ありがとうございます。また、加藤教育長職務代理者をはじめ、教育委員の皆様におかれましては、蕨市の教育行政の充実と子どもたちの健やかな成長のため、日頃より格別のご支援・ご協力をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

昨年も、学校教育や生涯学習をはじめ様々な教育施策が着実に進んだと考えています。第3回市民音楽祭においては、市民会館のホールの中で市民の方が音楽家の合唱や楽器演奏を楽しんでいた従来のイベントを、音楽のまちわらびを市内外に発信するため、新たにクラシックやジャズなど様々なジャンルの音楽が町中にあふれる18のイベントとして行いました。

フィナーレではサクソプレーヤーとして著名な坂田明さんと左手のピアニスト智内威雄さんが共演し、河鍋暁斎が描いたイソップ物語の挿絵をモチーフにした曲を作り、その物語を朗読して演奏するという蕨ならではのコラボレーションが実現しました。イベント全体では5,000人以上の方が来場し、大盛況で開催できました。

この会議は法律の一部改正により、平成27年4月に第1回会議を開催し、その中で蕨市教育大綱を議題として審議した結果、教育委員会が策定した蕨市教育振興計画をもって大綱とすることを決定し、その大綱に基づいて教育行政を進めてきました。

平成28年度第1回会議は「子どもたちの学力向上について」、平成29年度第1回会議は「子どもたちの体力向上について」を議題としており、蕨市は、学校、地域、教育委員会など様々な連携の下で、学力・体力の面において、県内で優れた成果を上げていることが確認できました。

今回は平成28年度第2回会議に引き続き、新年度予算の概要案を議題とし、新年度にどのような施策を進めるかについて審議していただきたいと思っています。

言うまでもなく、次代を担う子どもの教育は蕨にとって最重要課題です。また、市民にとっても蕨の子どもが健やかに育つことは共通の課題です。蕨市は、これまで35人程度学級、わらび学校土曜塾、教育センターの設置など教育の条件整備に努めてきました。後ほど説明があると思いますが、平成30年度には教育センターの更なる拡充を図る予定です。平成29年度には日本語の教育支援員を置いて大きな成果を上げていますが、更に支援が必要な子どもが多くいるため、対応場所の確保も含めてより充実した機能が求められています。具体的には、現在の場所では対応に限界があることから、中央小学校の一時的余裕教室に場所を移転し、外国人児童・生徒への日本語指導や教職員の研修にあたる担当職員を

更に配置することも予定しています。

限られた時間ですが、忌憚りの無い意見をいただき、この会議が実り多いものとなり、より充実した教育行政を進めていきたいと思っています。皆様、どうぞよろしく願いいたします。

3 議題

【佐藤総務部長】

ありがとうございました。それでは、要領第 3 条の規定に基づきまして、ここからの会議の議長を、頼高市長にお願いさせていただきます。頼高市長、よろしく願いいたします。

(1) 平成30年度教育事業の概要(案)について

【頼高市長】

それでは、次第に沿って平成30年度教育事業の概要(案)について議題とします。事務局から説明をお願いします。

【渡部次長】

資料 1 ページ「蕨市教育大綱の抜粋」をご覧ください。教育の目標や施策の根本的な方針である大綱は、教育基本法第 17 条に基づき定めるものとされています。蕨市教育大綱は、平成27年度第 1 回総合教育会議で、蕨市教育振興計画をもって教育大綱とすることを決定しました。

蕨市教育大綱は基本理念、基本方針、基本目標を骨子としており、蕨市の教育の目指す姿として構成しています。今回説明する、平成30年度教育事業の概要(案)は、蕨市教育大綱を基に、基本目標に掲げる「① 学びあい高めあう学校教育の充実」、「② 生涯学習を支える社会教育の充実」、「③ どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実」の各分野における、平成30年度の新規・拡充事業及び特徴的な事業を 11 事業あげています。なお、各事業の説明は、各所管課から説明をさせていただきます。

基本目標① 学びあい高めあう学校教育の充実

1 少人数学級推進事業(35人程度学級)

【杉田次長】

平成30年度から平成33年度にかけて教育課程が大きく変わるにあたり、予算をしっかりとつけて準備し、子どもたちのために充実した事業を展開したいと考えています。予算額は2,736万6,000円です。

国・県において小学校1・2年生の35人学級を実施していますが、蕨市は平

成22年度から独自に3年生から6年生までの少人数学級を実施しています。学級編制を少人数化することにより、教師が児童一人ひとりにしっかり向き合い目の行き届いたきめ細やかな教育指導を行えることが最大のメリットと考えています。なお、来年度は西小学校5年生、北小学校6年生、中央東小学校3・4・5年生に計5名の配置を予定しています。

また、今年度は教職員の給料も上げており、蕨市教員採用試験の受験人数は、平成28年度は6名でしたが、今年度は応募人数が16名、受験人数が12名であり、2倍以上の倍率となっているので、平成30年度に向けて、質の高い教員を採用できる方向で進んでいると思います。

2 教育センターの拡充

【杉田次長】

予算額は811万5,000円です。教育センターを福祉・児童センター3階から、中央小学校1階に移転し、特に外国人児童・生徒に対する日本語指導の充実を図りたいと考えています。来年度は、30人を超える外国人児童が市内小学校に入学予定ですが、その中には、全く日本語を話せない児童・生徒が8人いるため、少しでも話せるようにして学校に通えるようにすることで教育の充実につなげたいと考えています。また、年度途中での編入も多いので、教育センターの機能をしっかり発揮していきたいです。

教職員の資質向上については、各領域の研修もこなす主任指導員をセンターに配置し、学校のトラブル対応をサポートするとともに、新教育課程に合わせて教科書採択業務も行います。

また、教育関係資料を保管・展示するための教育図書館機能を持たせるなどセンター機能の拡充も図っていく予定です。

3 道徳教育の推進

【杉田次長】

予算額は102万円です。小学校は平成30年度から、中学校は平成31年度から道徳が教科化されるため、各校に外部講師を派遣し、教員の指導力の向上を図ります。また、平成29年度より西小学校を埼玉県の道徳教育推進モデル校に指定し、西小学校を中心に、引き続き市内小・中学校全ての道徳教育の実践・研究に取り組んでいきます。

4 ALTを活用した外国語教育

【杉田次長】

予算額は2,510万1,000円です。平成32年度からの新学習指導要領

の全面実施により、外国語が小学校で実施されますが、移行措置として、平成30年度より授業時数が増加します。それを受けて、現在、小学校2名、中学校3名配置しているALTを小学校で2名増員し、計7名の配置により外国語教育の充実を図ります。これまでは、近隣自治体と比較して給料が少なかったため、人材の確保に苦労していましたが、予算額の増加により日給が増えることから、人材の確保と各学校の教育効果をつなげていきたいと考えています。

5 学校トイレの環境改善

【渡部次長】

予算額は3,600万円です。老朽化による匂いや汚れなどを解消するほか、和式便器が苦手な子どもに配慮した洋式便器へ交換します。また、小便器のフラッシュバルブ化、床の乾式化などを行い、学校トイレの環境改善を進めます。工事は、学校運営に影響が少ない時期に、校舎内のワンフロアで男女1箇所ずつ行う予定です。なお、本事業は市長マニフェストによる4カ年計画で実施しており、平成30年度が最終年度となります。

【市長】

それでは、基本目標①について、皆さんよりご意見・ご質問をお願いしたいと思います。

【萩原委員】

蕨市は、コンパクトシティが特徴ですが、学校や先生の数が少なく、施設・設備が決して充実していないにもかかわらず、たいへん質の高い教育をしていると注目されています。教師が若年化するなか、先輩から後輩への指導技術を継承することが難しくなっている状況にあるので、教育センターの拡充は蕨の教育の質の更なる向上につながると思います。その一方で、適応指導が必要な子どもや外国人の子どもが蕨市に集まり、より一層教師に負担がかかる可能性もあります。子どもたちのための施策も大事ですが、それを支える学校の先生に報いることができる施策を考えてほしいと思います。

【頼高市長】

蕨市の教育を評価していただきながらも、若手の教員が増える中で、様々な技術をベテラン教師が伝えることが必要であると受け止めました。また、頑張るほど忙しくなる現場の負担に応えるための条件整備が必要だと考えています。現場の先生からは、人手が多ければ多いほど良いことや子どもと接する時間をどう確保するかが大切であるということを知っています。教育センターは、担任や

学校の指導だけでなく、関係機関と連携するためのソーシャルワーカーなど専門的人材を配置しています。また、来年度からは主任指導員として経験豊かな人が配置されるため、トラブルがあった時に、結果として現場の先生の軽減につながると期待しています。先生の技術継承については、指導・研修の充実に係る内容が教育センターに入っていると思うので事務局から更なる説明があればお願いします。

【杉田次長】

若手教員にとっては、経験を積み、話し合いや情報交換をする機会が多ければ多いほど、引出しが増え指導力がアップします。今までは、研修や情報交換、指導を行う場が蕨市の中ではありませんでしたが、そうした機会を作るのが教育センターです。教育センターの拡充により、毎日でも勤務時間に研修が行える時間が確保できます。良い成果を報告できるよう、教職員の力を伸ばしていきたいと思います。

【加藤委員】

教員を志望する学生を見ると、人間関係づくりが上手でない人も徐々に増えていると感じます。個人を大事にすると集団で活動する時間が減りますが、教育センターの活動を通じて、若い先生たちが孤立せずに、プライベートも含めて関わり合いの時間をたくさん作り、困ったときに先輩に相談する環境を作ってほしいです。

【杉田次長】

昨年度に配置した統括相談員が、保護者や児童・生徒だけでなく学校の相談に乗っているため、引き続き周知・機能させながらセンターの充実と負担の解消に向けて取り組んでほしいと思います。

【頼高市長】

蕨市役所にもブラザー・シスター制度があり、少し年上の職員が新人職員の担当となり、指導だけでなく相談に乗るような工夫もしています。

【飯野委員】

経験が少ない、若い教師が多くの子どもを指導するなかで、教育センターを拡充する意義は大きいです。ぜひ研修では、座学だけでなく、普段一人ではできない体を動かすような実習経験も行ってほしいです。たとえば、竹馬は分かっているけど体が動かせないもどかしさがあるため、体育の時間などにできない子ども

に対する想像が働くようになり、教師の幅を広げられると思います。また、クラスが少し荒れるようなことがあっても、子どもに対して心のゆとりが生まれると思います。35人程度学級もそうしたゆとりを生める施策だと思うので、引き続き進めてほしいです。

【杉田次長】

竹馬は生活科の授業で行っています。中央小学校の体育用具室が外にあるのですぐにできます。

【小島委員】

教育委員の任命を受けてから、授業を拝見する中で、自分が教育を受けた時と比べて、時代は進んだと感じています。特に、中学校の外国語の授業は、ネイティブの先生が、生徒が発言した時にジェスチャーを交えて CD やテープにない生の反応を返すため、迫力が違います。

アクティブラーニングが注目されています。ただ学んで、単語が言えたり書けたりできればよいのではなく、言葉という道具を使って、自分の文化を伝えたり要求したりするためのコミュニケーションの手段として活用する必要があります。平成 32 年度から大学入試改革が始まりますが、修学旅行で訪れた場所など、英語を使って何かを説明するということを子どもに植え付け、意識を持って学ぶ機会を持つようにすることが大事です。ただ、日本人だけで行うことは難しいため、外国人の方がいて生のコミュニケーションを行う機会があれば、後々に生きていくと思います。外国語教育の充実は嬉しく思っています。

【頼高市長】

蕨市は、アメリカ合衆国エルドラド郡とは姉妹都市、ドイツ連邦共和国リンデン市とは友好都市となっており、国際青少年キャンプ事業として、それぞれキャンプを行っています。中学生から高校の始めの子どもが参加していますが、「伝えたいことがないと、相手に伝えられない」、「自分が日本のことを知ることがコミュニケーションの第1歩」ということを体験して帰国します。まさに今の委員の話に通じると思います。今話を聞いて事務局から何かありますか。

【山口主幹】

子どもたちが触れ合う ALT の人数を増やすことで、コミュニケーションの機会が増えます。そのなかで、自分の英語が通じた時に子どもたちに自信が生まれます。何を伝えたいかの思考能力を磨くことが課題ですが、ALT と一緒にチームを組む日本人の先生のスキルを上げるため、外国語教育の研修も充実させて

いきたいと考えています。

【杉田次長】

新しい教育課程で3・4年生は年間15時間の英語授業がありますが、ALTの人数を2名プラスしたことにより、全ての小学校に3年生からALTが派遣されます。他の市にはない充実した取組だと思えます。

【頼高市長】

他にありますか。それでは基本目標②について説明をお願いします。

基本目標② 生涯学習を支える社会教育の充実

1 公民館エレベーター設置の調査・工事設計

【加納館長】

予算額は1,450万円4,000円です。生涯学習の拠点となる公民館等の利用者の利便性を高めるため、中央公民館及び西公民館へのエレベーター設置について、場所などの調査・検討を行い、その後に工事設計を行います。

2 図書館の耐震補強工事

【小栗館長】

予算額は2,590万円です。財源として、国庫補助金296万7,000円を見込んでいます。平成28年度に耐震診断を実施した結果、建物の強度は高いが構造上一部偏りがあり耐震補強工事が必要なことが判明したため、今年度に設計し、来年度に工事を行います。

3 わらび学校土曜塾

【松永課長】

予算額は、各小学校区の実行委員会への委託料703万2,000円です。財源として県補助金434万6,000円を見込んでいます。わらび学校土曜塾は、平成25年に3校でスタートし、26年に4校が加わりました。現在は7校すべての小学校区で、学習習慣の定着や基礎学力の向上を目的として、元教員や大学生、地域の方等が指導しています。

4 音楽によるまちづくり

【松永課長】

予算額は321万円です。音楽によるまちづくり事業は、平成27年度にスタートし、「わらび市民音楽祭」、「音楽関連情報の発信」、「小・中学校への音楽家

の派遣」などを行ってきました。平成30年度も充実した事業展開をしたいと考えています。特に、市民音楽祭は今年度と同様、市内外のだれもが音楽を気軽に触れることができ、プロや市民団体等の音楽家が出演するイベントとして開催することを予定しています。プロや市民団体の音楽家による音楽が市内各所で聴けるように、商店街・飲食店・企業等の参加協力を得て、賑わいを創出できるよう充実を図っていきたいと考えています。

5 岡田本陣家資料の整理・研究

【佐藤館長】

予算額は13万2,000円です。昨年10月に歴史民俗資料館の隣にある蕨宿本陣岡田家より、約1,500点の資料が寄贈・寄託されました。現在は、仮目録の作成を行っていますが、皇女和宮が訪れた際の資料、蕨宿の街並み図など古文書を中心に貴重な資料が含まれているため、平成30年度に近世史の専門家に依頼し、資料の筆耕と本目録の作成などの調査・研究を進めていく予定です。

【頼高市長】

基本目標③についても、引き続き説明をお願いします。

基本目標③ どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実

1 各種イベントやスポーツ教室等の開催

【松永課長】

予算額は407万5,000円です。長年、実績のある市民ロードレース大会や市民水泳大会、体カテストなどを実施し、市民が健康・体力づくりに親しめる機会を提供していきたいです。

【頼高市長】

基本目標③は施策が1つしかありませんが、今年度に蕨市民体育館のリニューアルや錦町スポーツ広場の人工芝化など大きな事業を行っています。

それでは、基本目標②、③について、皆さんよりご意見・ご質問をお願いしたいと思います。

【飯野委員】

高齢化が進むなかで、音楽・スポーツなどのイベントは一箇所でまとめて行うより市内の様々な場所で広く行うなど、身近なイベントとして広げてもらえるといいと思います。少し歩けば参加できることは外出の機会につながるうえ、特

に線路や国道を挟んでいる塚越地区と錦町地区の人も、参加しやすくなると思います。

【頼高市長】

蕨市は5.11㎢という狭い市域に7か所の公民館があるのが強みです。公民館には体操室や卓球台もあり、生涯学習や手軽なスポーツを行う拠点として、ますます大切になっています。分野は異なりますが、介護・健康分野では、介護予防事業のいきいき百歳体操に力を入れています。いきいき百歳体操も場所の確保が課題としてありますが、公共施設に限らず、マンションの集会室等、より身近な場所も活動の場所としています。こうしたことは、教育委員会でも意識して取り組んでいきたいです。

【加藤委員】

先ほどの発言にもつながりますが、イベントは毎年同じ会場で行うのではなく、場所を変えることで、訪れた人が新しい蕨を発見するきっかけを作れると思います。休日に市外から旧中山道を見に来る人が増えている一方で、蕨市民でも蕨のことを知らない人もいます。イベントと併せて蕨のことを知ることができる企画をやってもらえると良いと思います。

また、蕨で活動している団体のメンバーは高齢化が進んでいるため、市が率先して世代交代を進めないと衰退してしまうと思います。音楽によるまちづくりは組織が新しいため意欲がある人が大勢いますが、マンネリ化した時には組織が入れ替わらないと新しいものが生まれなくなるので、世代交代のチャンスがあれば行ってほしいです。

そして、市の事務局職員の事務負担も大きいので、余裕をもってうまく行える運営方法を考えないといけないと思います。

【頼高市長】

教育委員会でも様々な団体が活動しているので、心強い意見だと思います。

【萩原委員】

蕨の子どもが蕨を好きでいてくれるという話や、市外の人から蕨には祭りが多いと感じる話を聞くため、子どもたちが蕨のまちに親しむチャンスはあると思います。しかし、学校の先生が蕨市出身とは限らないので、教科書の上での薄い知識になってしまうのではないかと心配しています。わらび学校土曜塾などで蕨のことを教える機会に市内の人を積極的に活用できないでしょうか。また、蕨の資料のパッケージ化も進めてほしいです。図書館や歴史民俗資料館に資料

室はあり、目的をもって調べると様々な資料は出てきますが、学校教育と社会教育がリンクするよう、たとえば、蕨に映画館があり、駅の周りが蓮の田んぼだったことが分かるような子どもたちが親しみやすい資料としてまとめてほしいです。

歴史民俗資料館の街道の模型にある店舗についても良いものだと思うが、今のどこの店とリンクしているか蕨出身の私にも分からない場所があります。現在と過去のつながりが分かるシステムがあれば、子どもたちがもっと蕨を好きになり、最終的には市外に出ても蕨市にふるさと納税をしてくれるのではないのでしょうか。

【小栗館長】

学校の調べ学習で中山道や成年式を調べるため、図書館に来る児童がいます。参考資料室もありますが、職員が、どの資料にどの内容が載っているかを子どもたちに教えて調べてもらっています。

【杉田次長】

子どもたちが蕨を好きになる取組は進んでいると感じています。各学校では、毎年歴史民俗資料館や図書館を訪問しており、休みの日にも訪れることがあるようです。成人してからも成年式で元気よく市歌を歌う姿が見られます。公民館に子どもたちは遊びにきているのでしょうか。

【星野館長】

西公民館には、放課後などに子どもたちは20～30人いると思います。

【加納館長】

いずれの館でも放課後など多くの子どもが遊びにきたり宿題をしたりしています。

【杉田次長】

ご迷惑をかけていないか心配です。

【加納館長】

騒いだりした場合は声をかけますが、自由にロビーに来られなくなるのは良くないと思っています。子どもが公民館に遊びにいらしていることは、保護者としても安心感はあると思います。

【佐藤館長】

学校の総合的な学習の時間で、歴史をテーマとした児童はよく訪れます。特に1、2月が多いです。学校が終わった後も、子どもたち同士や家族連れで来ることもあり、他の市町村と比べたことはありませんが、よく利用されている実感があります。

【萩原委員】

施設が子どもたちによく利用されていることや資料に一定のリンクがされていることは分かりますが、より一層進めてほしいと思っています。

【頼高市長】

個々の項目については教えられているようですが、より体系づけて網羅できるとよいという意見だと思います。既に副教材わらびはありますが、引き続き研究してもらいたいです。

また、学習においては、知識だけでなく体験することが大切です。蕨市協働事業提案制度で採用された団体「はたごっこ」の活動において、機織り体験を各校で行ったことも貴重な体験です。わらびりんごによるサイダーの製作も体験学習に該当しそうですが、今年の各校での収穫状況はいかがでしたか。

【杉田次長】

全校が豊作で、わらびりんごサイダーを初めて学校にももらえました。

【頼高市長】

数年前に、ある高校の放送部の生徒が、わらびりんごを題材にスピーチを行い、全国大会で賞を獲得したことがありました。まちを身近に感じる取組により、愛着を持てる機会が増えていると思います。

(2) その他について

【頼高市長】

それでは、その他として、追加報告の説明をお願いします。

【根津次長】

その他の議題として、1点目、「蕨市庁舎耐震化整備基本方針」について説明します。2ページ上段にあるとおり、蕨市は、現行の耐震基準を満たしていない市役所庁舎について、耐震化は建替えにより行い、建設場所は現在地とする方針を昨年12月に決定しました。庁舎の概要については、昭和39年5月に建設

されてから、53年が経過しています。延床面積は4,695㎡で、平成23年から27年の平均で314人の職員が庁舎内で勤務しています。

現地建替えの方針とした検討経緯については3ページをご覧ください。庁舎の課題として耐震性能があげられます。平成7年度に行った耐震診断調査において、構造耐震指標（Is値）が基準を満たしていないことが明らかになりました。また、老朽化、狭隘化、バリアフリー化なども課題です。

4ページでは主な検討経緯を記しております。平成19年3月に貯金にあたる「蕨市庁舎整備基金」を設置しました。平成19年5月～21年12月には、職員で構成する「蕨市庁舎整備検討委員会」で検討を進め、その検討の結果等により、平成23年度には、建物の層崩壊の防止と避難路の確保を目的としたSRF工法による「軸耐力補強等工事」を実施しました。

その後、平成28年6月から12月には再び「蕨市庁舎整備検討委員会」を開催し、昨年1月には実現性が高いと判断された5つの整備方法について比較検討した報告書をまとめました。さらに昨年5月から10月には、市議会議員、学識経験者、公共的団体等の代表、公募による委員13人で構成する「蕨市庁舎整備検討審議会」を開催し答申を受けたほか、昨年夏に、5つの整備方法について、3,000人を対象に市民アンケートを行いました。

5ページは、審議会等における5つの整備方法の比較です。建替えについては、一律に6,500㎡の床面積規模として、概算事業費を見込みました。比較の結果、6ページから記載している、耐震性、利便性、経済性、早期実現性、まちづくりとの整合性などの観点、8ページにある市民アンケート結果、審議会からの答申において、現地建替えの優位性が一致して見られます。

9ページでは、今後の想定スケジュールを示しており、平成30年度が基本構想・基本計画、31年度が基本設計、32年度が実施設計、仮設庁舎建設等、平成33年度からが建設工事の予定です。

【根津次長】

2点目、東京2020大会マスコット選定における小学生における投票について報告します。2020年東京オリンピック・パラリンピックの大会公式マスコットの最終候補3作品が昨年12月に公表されました。

マスコットの選定では、全国の小学生による投票が実施され、子どもたちが2020大会に直接関わることができる貴重な経験となります。

蕨市としては、地方自治体の東京2020参画プログラムとして、市内全小学校で投票に参加する「マスコット投票宣言」を行いました。希望する全国の小学校が2月22日までクラス単位の投票をして、最も票を集めた作品がマスコットとなります。投票の取組などにつきましては学校教育課より続いて説明しま

す。

【咲間係長】

全7校110学級がマスコット投票の取組を進めており、手続きが完了しているところもあります。2月22日までには全ての小学校が投票の手続きを完了することを確認しています。

【咲間係長】

3点目、埼玉西武ライオンズによるライオンズキッズカップの寄付について報告します。資料は埼玉西武ライオンズからの送付文の写しです。全ての小・中学校が受け入れを希望しており、3月中旬までに児童・生徒に配付する予定です。

【松永課長】

4点目、錦町スポーツ広場のリニューアルオープンについて報告します。当初は1月末の完成を予定していましたが、大雪の影響で2月末まで工期を延長しています。オープン後1回目のイベントとしては、2月24日に蕨市・片品村のグラウンド・ゴルフ交流大会を予定しています。なお、2月11日に予定していた野球イベントは3月4日に改めて行う予定で、その後は3月21日の浦和レッズコーチによるサッカー教室を予定しています。一般利用の開始は3月1日利用分からです。

【咲間係長】

5点目、平成29年度の児童・生徒の活躍について報告します。小学校では縄跳び、リズムダンス、作文、絵画、人権メッセージの分野で成果をあげています。

また、中学校では、文化・運動部の活動で埼玉県を代表して関東大会に出場しているほか、県大会でも活躍しています。

【頼高市長】

それでは、事務局より説明のあった5点について、皆さんよりご意見・ご質問をお願いしたいと思います。

【一同】

特になし。

【頼高市長】

その他、事務局から何かありますか。

【事務局】

次回の開催時期ですが、10月に開催することを提案いたします。

【頼高市長】

皆さん、よろしいでしょうか。

【一同】

異議なし。

【頼高市長】

それでは、今回は、10月に開催いたします。

【事務局】

詳しい日程と議題については、改めて通知いたします。なお、本日の議事録については、事務局で作成後に委員の皆さんに確認いただいたうえで、要領第6条の規定に基づき、ホームページ等で公開させていただく予定です。

【頼高市長】

それでは、予定していた議事は終了したので、進行を事務局にお返しします。

4 閉会

【事務局】

ありがとうございました。それでは、本日の会議はこれで全て終了いたしましたので、閉会とさせていただきます。